

## 「まちづくりと公共交通」

Hさん：高知は自然豊かな気候風土だと思います。それを町中で感じられるようなまちづくりをして、町に魅力があると、やはりそこに滞在したいと思うようになると思います。それが、もしかしたら次の世代を担う子どもたちの原風景になるかもしれない。町の中に緑のゾーンや人が集うところがある。例えば、長い歴史のある日曜市・木曜市に人が集って、「そこが高知の魅力です」と高知県民一人ひとりが言えるようになることが、地産外商でみんなが営業に関わることにつながるのではないかと思います。観光客に、例えば、「これに乗ればどのくらいで〇〇に行けます。そこには〇〇がありますよ。どうぞ行ってみませんか」と伝えられたら、すごくいいなと思っています。環境と公共交通は結びつきますが、景観や経済も合わせた横串を刺していくようなまちづくりをしていただきたいと思います。

以前、オランダのハーグで、ローカルアジェンダの成果を調査したときに、交通政策、まちづくりがずいぶん変わっていました。その交通政策を変えるときに、一番有効な意見を出したのが実は主婦でした。毎日、子供たちの送り迎えに自転車で町中を移動している人たちは、一体どこにどういうものがあったら便利なのかが分かっているからです。今後、交通政策を考えていくときに、そういう方たちと話し合う場を数多く作っていったらいいのではないかと思います。

知事： それはいいですね、分かりました。ぜひそうさせていただきます。